

令和元年度 袖ヶ浦市立図書館サービス状況 点検・評価

「袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画（後期）」〈5〉サービス目標 より

“「図書館は、そのサービス水準の向上を図り、図書館の目的及び社会的使命を達成するため「数値目標」を設定し、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うとともに、その結果を市民に公表するように努めます。”

評価基準

- 4：計画どおりに実施でき、一定以上の成果があった。達成率 100%以上
- 3：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上
- 2：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満
- 1：不十分な点や課題が多く、計画どおりに実施できなかった。達成率 60%未満

後期計画の目標値については平成28年4月に設定し、平成30年11月に一部を改訂した。

令和2年9月
袖ヶ浦市立中央図書館

評価基準	4：計画どおりに実施でき、一定以上の成果があった。達成率 100%以上 3：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上 2：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満。 1：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。達成率 60%未満。
------	---

(注) ☆は、後期計画（平成28年度～令和2年度）で追加した指標

サービス内容（1）資料及び情報の収集、提供等

令和2年度想定市人口 64,000 人
令和2年4月1日市人口 64,519 人

サービス評価指標	実績(R1)	目標値	達成率	
☆①図書購入タイトル数/購入冊数(%)	85.8	90.0	95.3%	3
☆②蔵書冊数(所蔵図書冊数)	701,931	710,000	98.9%	3
☆③市民一人当たりの蔵書冊数(冊/人)	10.9	11.1	98.2%	3
④袖ヶ浦市関係資料の受入冊数(冊/年)	271	270	100.4%	4
⑤年間利用者数(人/年)	140,856	155,000	90.9%	3
⑥市民新規登録者数(人/年)	1,227	1,200	102.3%	4
⑦市民登録率(%)	41.5	60.0	69.2%	2
⑧資料貸出数(点/年)市外含む総計	527,781	650,000	81.2%	3
⑨市民一人当たりの貸出数(点/人)	8.2	10.2	80.4%	3

◎平均達成率：90.8%【816.8（項目ごとの達成率の合計）÷9（項目数）=90.8】

(後期計画におけるサービス内容)

「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、資料の整備に努めます。

第3次図書館サービス網計画の中で、資料整備については、「人口1人当たり10冊を基本に640,000冊を目標とします。」とうたっています。現在、蔵書冊数は65万冊を越え、前期の目標値は達成していますが、図書館資料については、最新の情報を提供し書架の新鮮さを保つためには継続的な更新が必要であることから、今後も開架資料の5%の更新を目標として、市民に多種多様な学習要求に応えられるように、幅広いタイトル数を購入するよう努めてまいります。

少子高齢化の急速な進行に伴い、図書館の利用についてはこの5か年で、資料貸出総数、新

規登録者数等については減少傾向にあります。

図書館としては、利用者により資料に関心を持ってもらうための時宜的な資料展示やテーマ展示、また転入者への利用案内の配布、県立袖ヶ浦高校生に利用案内を配布するほか、今後も図書館資料の情報提供を進め、利用の拡大に努めます。

内部評価

○全体評価：3【平均達成率：90.8%】

- ・新刊図書の購入を中心に必要に応じて遡及購入を行ったほか、郷土行政資料を中心に寄贈の依頼も行い、12,446冊の図書（うち購入11,540冊）を受け入れした。一方で、新版の出した旅行ガイド等は旧版を分館へ移管し、情報の古くなった図書は書庫へ編入した。全館の開架書架の図書318,870冊（令和2年3月31日現在）の約3.9%を更新し、重点施策に掲げた開架図書の更新率5%という目標値に対する達成率は78.0%にとどまった。
- ・市民の新規登録者数については、10月からブックスタート会場で対象となる4か月児の新規登録を開始した効果があり、平成24年度以降では最も多い1,227人の新規登録があった。（うちブックスタート会場での新規登録は10月～2月で97名。）一方で、10年間未利用により除籍した市民登録者も、1,531人と前年度（平成30年度1,488人）より増加したため、登録者数は減少した。
- ・台風15号、台風19号被害による臨時休館、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う読書普及事業の中止やサービスの一部制限、臨時休館の影響を受け、年間の利用者数や資料貸出数は前年度を下回った。

○課題

- ・高齢化の急速な進行に対応して、平成29年度以降、長浦おかのうえ図書館には「闘病記コーナー」、中央図書館には「認知症コーナー」を設置したが、認知症予防だけでなく、介護予防や介護支援についてのニーズが高まっていることから、何らかの対応が必要である。
- ・新規登録者は増えているものの、10年間未利用による除籍者数が新規登録者数を上回るため、市民登録率は低下している。年代別で見ると20代から40代の図書館利用が少ないことから、これらの勤労世代に対する積極的な働きかけが必要である。

○今後の対応

- ・市内でも高齢化の進行が著しい地域にある平川図書館に、新たに「介護予防・介護支援コーナー」をつくる。
- ・ビジネスマナーや資料作成、職場トラブル、就職案内の本など、勤労世代の課題解決に役立つ資料を充実させ、特設コーナーでも取り上げ積極的にPRする。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・市内のすべての図書館・図書室に設置している乳幼児向け絵本コーナーについて、保健センターや子ども館などの子育て関連施設、駅やスーパーなどの商業施設にポスターを掲示して周知を図ったほか、乳幼児向け絵本コーナーに隣接して、育児関連図書のコーナーを中央、長浦だけでなく全館に設置した。
- ・「市民の声」で出された意見を受け、ブックスタートの会場で対象となる4か月児の図書館利用登録を開始した。また、ブックスタートボランティアからの提案により会場内に育児書を展示したほか、市内のすべての図書館・図書室に令和元年度から設置した「子育て応援コーナー」についてもPRした。
- ・国立がん研究センターが発行する、科学的根拠に基づくがんに関するパンフレットなどを集めた「がんサポートコーナー」を、中央図書館のレファレンス・コーナー横に設置した。
- ・平成30年度に資料選定基準を一部改訂し、学習漫画も児童書の選定対象としたが、内容を慎重に検討し、中央図書館で1セット（集英社版学習まんが「日本の歴史」全20巻）を購入した。
- ・台風第15号の被害以降、市民の関心が高まった災害関係の分野の図書を積極的に収集し、全館で61冊（一般書49冊、児童書12冊）の図書を受け入れした。
- ・3月には、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、臨時休館するまでの間、中央図書館と長浦おかのうえ図書館で、おすすめの絵本をまとめた「すぐ借りて帰れる絵本セット」を提供し、好評だった。

<継続>

- ・地域の高齢化が進行する中で、市民の関心が高く、常に新しい情報が求められる社会福祉と医学関連の図書を重点的に収集した。社会福祉の分野の図書を全館で194冊収集し、同分野の全開架図書2,027冊の約9.57%を更新したほか、医学・薬学の分野の図書を全館で671冊収集し、同分野の全開架図書9,933冊の約6.76%を更新した。
- ・中央図書館を中心に郷土資料の拡充に努め、市内3図書館で612冊の郷土資料（うち袖ヶ浦市関連図書271冊）を収集した。
- ・おすすめ図書のリストを一般向けに2種類「男女共同参画社会関連図書リスト」「新成人に贈る図書館お薦めの20冊」、児童向けのパスファインダー（調べ方案内）「昔のあそび」を調べる」を新たに作成したほか、一般向けのパスファインダー4種類の改訂版（「働く」ということ、妊娠・出産・赤ちゃん、くらしに役立つ「法律情報」、「情報検索」）を作成した。
- ・袖ヶ浦高等学校の生徒全員に、「袖ヶ浦市の図書館をぜひご活用ください!」という利用案内（裏面は青少年向けのお薦め図書リスト「ティーンズ・トショロ」）を配布した。
- ・夏休み中に全館で「宿題おたすけコーナー」を設置し、児童の利用促進を図った。
- ・4～5月の「こどもの読書週間記念行事」、7～8月の「夏のトショロ月間」、10～11月の「秋のトショロ月間」など長期間の大型イベント、そして新年企画として1月には「えほんのふくぶくろ」を全館で行なったほか、中央図書館、長浦おかのうえ図書館、平川図書館では月替わりで時事的な関心の高いテーマの関連図書を「特設コーナー」に集めて紹介するなど、年間を通じて様々な形で市民の読書意欲を喚起する取り組みを行った。

- ・「文芸講座」や各種講座・講演会、定例の映画会、「資料展示」等の主催事業では、会場やカウンター周りで関連図書を紹介し、貸出に供した。
- ・1月には、子どもが読書に親しむきっかけづくりとして、書名が分からないように絵本3冊を袋に入れて、ヒントとなるテーマを表に書いた「えほんのふくぶくろ」を実施した。全館で110セットを用意し、すべて貸出された。
- ・新着図書がより多くの来館者の目に触れるように、全館で一度貸出した図書も受入後60日間は再度「新着図書コーナー」へ排架することにし、貸出の増につなげた。
- ・市役所の市民課、長浦・平川行政センターにおいて転入者へ図書館の利用案内を配布したほか、袖ヶ浦高等学校の新生児に対して高校生向けに作成した利用案内を配布した。また、ブックスタートでは、幼児向けのおすすめリストとあわせて図書館の利用案内「親子のための図書館・図書室まるわかりMAP」を配布し、利用喚起を図った。

外部評価（図書館協議会からの意見）

- ・ブックスタート会場で0歳児の新規登録を行うことは、市民登録率の向上に効果的であり、その後の図書館利用につながるので、保護者へのアピールも含めて積極的に取り組んでいただきたい。また、10代後半から読書離れの傾向が始まっていることから、中学生までの時期に、図書館の利用方法、本を借りる以外の利用などについてホームページ等も活用してアピールしていただきたい。
- ・子どもの年齢に合った本を選ぶのは親にとってもなかなか大変な作業なので、「すぐ借りて帰れる絵本セット」の取り組みは評価したい。

サービス内容（２）社会情勢の変化に対応したサービスの充実

令和2年度想定市人口 64,000 人

令和2年4月1日市人口 64,519 人

サービス評価指標	実績(R1)	目標値	達成率	
⑩一日あたりのホームページアクセス件数 (件/日)	324.1	315	102.9%	4
⑪一ヶ月あたりのWeb予約件数(件/月)	2,851.8	2,250	126.7%	4
☆⑫学校図書館への対応 ・団体貸出総冊数(冊数/年)◆	3,416	3,000	113.9%	4
⑫学校図書館への対応 ・出張おはなし会参加者数(人/年)◆	6,371	5,000	127.4%	4
⑬レファレンス件数(件)	1,024	800	128.0%	4

◆【平成30年11月改定】学校図書館、学校ボランティア活動の充実を勘案し、目標値を変更した。

◎平均達成率：119.8%【598.9（達成率の合計）÷5（項目数）=119.8】

（後期計画におけるサービス内容）

①情報化社会への対応

今後も、ホームページの充実を図り、またメールマガジンの発行により、新着資料の情報提供や個々に関心の高い資料情報の提供を行うなど、より利便性の高い情報発信を行っていきます。

②学校図書館への対応

学校図書館への支援については、今後も引き続き、団体貸出、レファレンスサービス、学級文庫への読み物のセット貸出を行うなど学校図書館を通した子どもたちの読書への支援をさらに推進します。また学校を訪問してのおはなし会等を開催し、調べ学習の支援を行います。

③高齢化社会への対応

高齢者にとって、より利用しやすい図書館を目指し、今後も大活字本の提供、朗読CDの積極的な収集提供に努めます。

④関連施設・関係課との連携

他の公共図書館との連携により、市民への資料提供をより一層充実させます。また今後も他の公共図書館、学校図書館、博物館などの教育施設との連携を図り、子育て支援を推進し、図書館利用の促進のため、関係課との連携をより強化していきます。

⑤国際化への対応

国際化が急速に進展し、子どもから大人まで、市民が外国の文化に触れる機会も増大しています。より外国の文化を理解し、外国人に日本文化を紹介するための外国語資料の充実を図り、外国語による利用案内等を作成します。

⑥職業能力開発の要求への対応

労働を取り巻く環境の変化により就職、転職、能力開発、日常の仕事等で情報を必要とする市民は増加しています。こうした利用者に対応するための資料の収集・提供、適切なレファレンスの実施等、個人の学習ニーズに応える機能を高め、図書だけでなく、就労や資格取得のためのパンフレットやチラシ等による情報提供、インターネットを活用した情報や、法律・経済関連のデータベースの提供を行います。

⑦レファレンスサービスの充実と利用促進

レファレンスサービスについては、情報量が増大し、多種多様となっている現代社会において、課題解決のための支援はますます重要になっています。市民の課題解決支援に対応するために必要な図書資料及び電子資料の提供に努めます。

内部評価

○全体評価 : 4 【平均達成率: 119.8%】

- ・図書館電算システムの更新、図書館ホームページのリニューアルによって、利用者にとっての利便性を向上させることができた。
 - 1日あたりのホームページ総ページビュー数 16,575.8件 (平成30年度 19,576.6件)
 - 1か月あたりのウェブ予約件数 2,851.8件 (平成30年度 2,758.8件)
- ・学校からの図書流通システムによる依頼に的確かつ柔軟に対応し、読み物・絵本セットの貸出は昨年度より減少したが、調べ学習等の貸出冊数は増加した。
 - セット貸出を含む学校への団体貸出 3,416冊 (平成30年度 3,270冊)
- ・おはなし会の依頼がない学校に対し図書館から積極的に働きかけたことで依頼件数が増え、学校への出張おはなし会の参加人数が大幅に増加した。(平成29年度 3,492人→平成30年度 6,013人→令和元年度 6,371人)

○課題

- ・図書館のホームページをリニューアルしたが、新しいWebOPAC (ホームページ上の蔵書検索) の操作方法や新たに追加された機能などが、まだ十分に周知されていない。

○今後の対応

- ・新しいWebOPACの操作方法について、ホームページや図書館だよりなどで詳細にわかりやすく説明する。
- ・ホームページをリニューアルし、未所蔵資料のリクエスト、レファレンスをメールでも受け付けることが可能になったので、図書館に来館する時間的余裕がない勤労世代に対しても周知を図る。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・12月の図書館電算システム更新にあわせて、図書館のホームページをリニューアルし、パ

ソコン版とモバイル版の自動切替、フォトニュースのコーナーやティーンズページ、図書館ボランティアのページなどの追加、読んだ本や読みたい本の「MY本棚」登録など、利用者の利便性につながる機能が向上した。また、カウンターでは、図書館の資料利用券とICカードを連携させることで、マイナンバーカードやSuica、おサイフケータイによる貸出が可能になった。(令和元年度ICカード登録者45名。)

- ・学校へ団体貸出している読み物・絵本セットの組み替えについて検討したが、提供を開始してから10年以上を経過し、新しいものでも平成13年までに購入したものであり内容的に古くなっていることから、組み替えは行わず、「本・雑誌リユース・デー」の事前配布対象として、学校ごとに必要なものを持ち帰ってもらい、各学校で活用してもらうこととした。
- ・中央図書館で開催される「調べ学習相談会」に先行して、平岡小学校の児童を対象にレファレンスを受け付ける「平岡公民館図書室レファレンスデー」を行った。
- ・平成30年度から導入した国立国会図書館の「れきおん（歴史的音源配信サービス）」を活用し、中央図書館で、8月の名画鑑賞会の上映前に、戦後日本の流行歌（音源は当時のSPレコード）の鑑賞会を行った。

<継続>

- ・ホームページ上で毎月、前月1か月分の袖ヶ浦市関連新聞記事見出し一覧を公開したほか、令和元年度1年間分の記事一覧を冊子体にまとめ、地域情報の充実を図った。また、市役所内で活用してもらえるように、市職員向けの掲示板にはエクセルファイルで掲載した。
- ・メールマガジン、ツイッターを活用して、図書館資料の紹介や読書普及事業のお知らせだけでなく、災害時の臨時休館のお知らせなど、即時性の高いタイムリーな情報を発信した。
(参考) 令和元年度末メールマガジン登録者数181人(平成30年度末167人)
令和元年度末ツイッターフォロワー数390人(平成30年度末155人)
- ・「本・雑誌リユース・デー」では、図書館で不用になった除籍資料を広く再活用してもらうため、市民への提供に先行して市内の保育所、幼稚園、小中学校、学校や保育所、子育て支援拠点、学童保育、養護施設、高齢者施設等に案内を送り、34団体に対して1,764冊を提供した。
- ・出張おはなし会について小中学校の司書教諭や学校司書へ周知するため、学校の読書教育推進会議に児童奉仕担当者が出席して説明した。また、依頼のない学校、学童、保育所等に対しては図書館から個別にPRした。
- ・「夏のトショロ月間」では、「親子いっしょのおはなし会」として、袖ヶ浦高等学校生徒による読み聞かせを行った。また、中央館児童室では昭和中学校図書委員会によるおすすめ図書の紹介展示、長浦の市民ギャラリーにおいて蔵波中学校美術部員による作品展示を行った。
- ・「秋のトショロ月間」において、中央図書館で昭和小学校4年生の児童が作成したオリンピック・パラリンピックのリーフレット「ぼくらオリパラ情報局」を展示したほか、平川図書館では、平川中学校の図書委員と1年生によるおすすめ図書の紹介展示を行った。
- ・中央図書館の青少年コーナーにおいて、袖ヶ浦高校図書委員の選んだおすすめ図書を、10月25日から12月26日まで展示した。
- ・総合教育センターが中央図書館を会場として毎年7月に開催する「調べ学習相談会」では、

講師の助言を受けた参加者の要求に応じて図書館の職員が適切な資料を紹介、提供する形で連携し、小中学生の調べ学習を支援した。

- ・平岡公民館の通学合宿で公民館図書室を活用したほか、平川公民館・根形公民館・平岡公民館の公民館まつりでは「秋のおはなし会」「すきすき絵本タイム」などの事業を連携して行ったほか、平岡公民館・平川公民館合同開催の幼児家庭教育学級を兼ねて、「大型えほんとわらべうた」を開催した。
- ・NPO「子どもるーぷ袖ヶ浦」主催の「子どもるーぷまつり」に参加し、図書館職員とボランティアによる出張おはなし会を実施した。
- ・館内閲覧用の電子図書として朝日新聞、日本経済新聞記事のデータベース、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを導入し、市民の調査研究支援に活用した。夏休み期間中には、読売新聞データベース「ヨミダス」の無料トライアルを導入し、児童生徒の調べ学習に活用した。

日本経済新聞記事データベース閲覧件数90件（平成30年度 閲覧件数30件）

朝日新聞・読売記事データベース閲覧件数60件（平成30年度 閲覧件数128件）

国立国会図書館デジタル化資料閲覧件数31件（平成30年度 閲覧件数62件）

- ・市内中学校生徒の職場体験学習、木更津総合高等学校生徒のインターンシップを受け入れたほか、ちば南部若者サポートステーションの通所者を受け入れ、図書館の仕事の一部に携わってもらった。

外部評価（図書館協議会からの意見）

- ・外国語の絵本の配列方法や日本語版がわかるようなおすすめリストの作成など、外国語の絵本が探しやすくなるような工夫を考えていただきたい。

サービス内容（3）利用者に応じたサービス

令和2年度想定市人口 64,000 人

令和2年4月1日市人口 64,519 人

サービス評価指標	実績(R1)	目標値	達成率	
☆⑭児童サービスの充実 ・ブックスタートにおける本の配布率(%)	82.1	100	82.1%	3
☆⑭児童サービスの充実 ・おはなし会参加者数[館内・館外合計](人)◆	12,759	12,000	106.3%	4
☆⑭児童サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(回/年)	4	4	100%	4
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(Y・A)	1	1	100%	4
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(ジュニア)	1	1	100%	4
☆⑯高齢者サービスの充実 ・大活字本の貸出冊数(冊/年)	3,863	5,000	77.3%	2
⑰障がい者サービスの充実 ・宅配サービス(冊/年)	271	350	77.4%	2
☆⑱図書館ボランティアの育成(名)	71	70	101.4%	4
⑲来館者満足度 ・利用者アンケート「図書館全体の満足度」(%)	未実施	75.0		

◆【平成30年11月改定】学校図書館、学校ボランティア活動の充実を勘案し、目標値を変更した。

◎平均達成率：93.1%【744.5（項目ごとの達成率の合計）÷8（項目数）=93.1】

（後期計画におけるサービス内容）

①子どもたちのために

今後も子どもたちが読書の楽しさを体験し、本に親しむことのできる読書環境の充実に向けて、学校、幼稚園、保育所等との連携を図りつつ、「袖ヶ浦市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの発達段階に応じた、わらべうたであそぼう、えほんのへや、おはなし会を開催するとともに、新たに健康推進課の4か月児教室において、ブックスタートを実施し、乳児期からのサービスを提供します。

②高齢者のために

今後も、高齢者に配慮した施設の整備を図り、大活字本などの資料の充実に努めます。また、社会福祉協議会、高齢者クラブ等の関係機関・団体との連携を図りながら、映画会、講習会等の読書普及事業の実施、図書館利用の際の介助など、きめこまかな図書館サービスの提供に努めます。

③図書館利用に障がいのある人のために

宅配サービス等の利用案内を引き続き広報等でPRに努めると共に、目の不自由な方へのサービスについても、要望があった場合には的確に対応できる体制を整えます。

④主体的に学ぶ市民のために

市民が読書に親しむ取り組みとして、図書館サークルやボランティアの協力を得ながら、市民に親しまれる図書館を目指し、あらゆる世代に対し図書館の利用や読書に結びつくよう、各種講座・講演会、名画鑑賞会、資料展示等を開催していきます。また、公民館や博物館等の社会教育機関、学校、民間の関係機関との共催事業等、多様な学習機会の提供に努め、市民の情報活用能力の向上を支援するため、学習機会の提供に努めます。

- a. 余暇活動支援 b. 学習生活及び調査研究支援
- c. IT支援 d. 行政支援 e. ビジネス支援

⑤サークル活動をする人のために

市民が図書館資料を共有する中で交流し、暮らしに根ざした自主的な活動を展開していくことは、地域の文化活動を豊かにします。図書館では市民の文化活動、コミュニケーション活動の拠点として、図書館資料、施設を利用して活動するサークルに対して、その活動を支援します。

⑥ボランティア活動をする人のために

市民のニーズにあった事業を展開していくために、市民の知識や技術を生かした市民協働の図書館運営を目指し、新たに展示、映画会事業をはじめ、様々なボランティアを養成します。

内部評価

○全体評価 : 3 【平均達成率 : 93.1%】

- ・読書普及事業の参加者増に向けた様々な取り組みの効果により、台風被害や新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、おはなし会や映画会等の開催回数が減ったにも関わらず、平成30年度を上回る参加があった。
 - 館内おはなし会実績131回・2,306人(平成30年度143回・2,301人)
 - 館外おはなし会実績349回・10,453人(平成30年度366回・10,215人)
 - 映画会実績57回・3,331人(平成30年度69回・3,102人)
 - 読書普及事業参加者総数20,418人(平成30年度19,396人)
- ・社会教育推進員や図書館ボランティアとの協働による事業運営がさらに定着し、図書館の新規登録や館内の飾り付けなどの積極的な活動は、図書館にとって読書普及事業にとどまらない波及効果があった。
 - 社会教育推進員13名・図書館ボランティア71名(平成30年度13名・74名)
 - 社会教育推進員・図書館ボランティア活動回数539回(平成30年度605回)
- ・台風15号、台風19号被害による臨時休館(9月、10月)、新型コロナウイルス感染防止対策に伴う読書普及事業の中止やサービスの一部制限、臨時休館の影響もあり、高齢者や障がい者を対象としたサービスの実績は昨年度を下回った。

○課題

- ・市人口の増に伴い、ブックスタートの対象人数が年間で500人を超え、ブックスタートの実施回数が増えたほか、会場で図書館利用券の発行を開始するなど、ブックスタートボランティアの負担が大きくなってきている。
- ・子どもの発達段階に応じたおはなし会を推進するため、おはなし会ボランティアには、絵本の読み聞かせや素話だけでなく、幼児向けに手遊びやわらべうたなどのスキルを習得することが必要である。
- ・高齢者が読みやすい資料として大活字本を継続して購入しているが、大活字本の貸出冊数は年々減少している。(平成29年度4,254冊→平成30年度4,123冊→令和元年度3,863冊)
- ・図書館へ来館することが困難な障がい者を対象に実施している宅配サービスは、新規登録はあったものの、利用者の転居等やむを得ない事情もあり、利用実績は昨年度より減少した。(平成29年度339点→平成30年度359点→令和元年度271点)

○今後の対応

- ・ブックスタートボランティア養成講座を開催し、ブックスタートボランティアを増員する。
- ・おはなし会ボランティアを対象とした「おはなし会ボランティアスキルアップ講座」を開催し、手遊びやわらべうたを習得することで、幼児向けのおはなし会の充実を図る。
- ・子育てや子どもの読書に関心のある多くの市民のために、「子どもの本の講座」を開催し、子どもと本をつなぐための素話についての講演を行う。
- ・大活字本を今後も継続して収集するとともに、図書館へ来館しにくい高齢者への対応を次期サービス網計画の中で検討する。
- ・障がい者サービスの案内がサービスの対象者にできるだけ直接届くように、関係機関を通じて、より効果的に配布するよう努めるとともに、今後も定期的にSNS等電子媒体も活用した広報活動を行う。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・市内のすべての図書館・図書室に設置している乳幼児向け絵本コーナーについて、保健センターや子ども館などの子育て関連施設、駅やスーパーなどの商業施設にポスターを掲示して周知を図ったほか、乳幼児向け絵本コーナーに隣接して、育児関連図書を集めた「子育て応援コーナー」を中央、長浦だけでなく全館に設置した。
- ・乳幼児と保護者が気軽に図書館を利用できるように、平川図書館の「おはなしのへや」と公民館図書室の「ふれあい読書コーナー」を、開館中は「いつでも親子タイム」として開放した。12月からは、中央図書館「おはなしのへや」を、土日の午前10時から午後4時までの時間帯を親子で絵本の読み聞かせに利用できるよう開放した。
- ・おはなし会の充実とボランティアの増員を目指し、昨年度に養成した絵本の読み聞かせボランティアを対象に、素話を習得するおはなし会ボランティア養成講座中級編(全4回)を実

施し、8名のおはなし会ボランティアを新たに登録することができた。講座では毎回職員やベテランのボランティアが素話を実演し、ボランティア全体のモチベーション向上にもつながった。

- ・中央図書館ラウンジの展示コーナーについて、資料展示ボランティアと連携し、2か月ごとに企画展示を行った。また、社会教育推進員の有志により、中央図書館の児童コーナーの飾りつけを季節ごとに行った。
- ・「秋のトショロ月間」の期間中に、図書館ボランティアの活動を紹介するパネル展示を長浦おかのうえ図書館で行った。
- ・障がい者サービス対象者への広報活動として、障がい者支援課が障害者手帳等の交付時に配布する「障がい福祉のしおり」に図書館の障がい者サービスの案内を綴じ込むよう依頼し、今後は対象者にもれなく周知できることになった。また、社会福祉協議会が開催する「障がいのある方々が集う会」の参加者全員に案内のチラシを配布し、宅配サービス1名の新規登録に結びついた。

<継続>

- ・4か月児を対象に、市の保健センターでブックスタートを毎月実施したが、コロナウイルス感染拡大防止対策のため、3月は4か月児教室が中止となり、ブックスタートも実施できなかった。対象人口が増えたことにより、ブックスタートを1日に2回実施する月もあった。また、ボランティアからの積極的な提案により、事業が充実した。4か月児教室に参加する親子には、ほぼ100%配布できているが、4か月児教室に参加しない親子もいるため、保健センターでの対象人口に対する配布率は約78.7%である。4か月児教室に参加できなかった親子には中央図書館で受け渡しを行い、最終的な配布率は82.1%となった。
- ・ブックスタートのフォローアップ事業として、公民館図書室で「すきすき絵本タイム」を実施した。
- ・おはなし会と子ども映画会や「かみのおはなやさん」とのタイアップ開催、開始時刻を定めずに、一定の時間内でおはなしを聞きたい子どもにおはなしをする中央図書館の「おはなしのじかん」、子ども映画会とおはなし会に参加した子どもに図書館のイメージキャラクターを描いた手製の「トショロカード」を配り、カードを5枚集めるとプレゼントを渡す、などの平成30年度から始めた取り組みを継続して行った。
- ・乳幼児から高校生まで、年代別のおすすめ図書リストを4種類6回作成して、館内だけでなく学校や保育所等に配布した。また、こどもの読書週間記念行事で配布するおすすめ図書リスト「読んであげると小さい子も楽しめる物語」を改訂したほか、夏休み期間には読書感想文におすすめの図書リスト「動物と人」を作成した。
- ・夏休み期間中に「夏のトショロ月間」を開催し、社会教育推進員が企画した「マザーグースでてあそび」「はらぺこあおむしの手づくり工作」のほか書庫探検、子どもが自分で本の貸出体験をする「自分でピッ！してみよう」、おはなし会ボランティアや袖ヶ浦高校と連携した「なつやすみとしょかんであそぼう」、グループサークルによる人形劇など、子どもの読書活動につながる様々なイベントを行い、参加者は昨年度より大幅に増加した。

全館の参加者合計2,163名（平成30年度1,364名）

- ・読書週間をはさんで「秋のトショロ月間」を開催し、中央ではアガサ・クリスティーについての「文芸講座」、長浦では高齢者に身近な生活課題を取り上げた「暮らしに役立つ生活講座～老後の生活設計のあり方」を開催した。また、社会教育推進員が企画した中央図書館の中庭を活用した「トショロの庭 Tea Time」、オペラ作品のビデオ上映、映画会ボランティアが企画した「ようこそ！秋はミステリーの世界へ」と題した特集上映、図書館登録サークルによる作品展示やコンサート等を行ったほか、平川・根形・平岡では「本のおたのしみ袋」の貸出も行い、参加者は昨年度より増加した。

全館の参加者合計1,676名（平成30年度1,359名）

- ・高齢者が利用しやすい資料として、中央、長浦、平川で朗読CDを25点（24タイトル）、大活字本を71冊（35タイトル）購入した。
- ・障がい者サービスとして、心身の障がいのため来館が困難な市民に対して宅配サービスを行った。視覚障がいのある利用者には視覚障がい者用データベースを活用し、デイジー図書を提供した。個々の利用者が希望するジャンルの図書リストを作成するなどきめ細かく対応した。

宅配利用登録者 10名・貸出点数271点（平成30年度10名・359点）

うちデイジー利用登録者 1名・貸出点数63点（平成30年度1名・72点）

- ・参加者相互の交流の機会をつくり、事業内容の理解を深めることを目的に、文芸講座の最終日に講師との懇談会を実施したほか、名画鑑賞会では上映後に感想を話し合う「シネマトーク」を中央と図書館と平川図書館で各2回実施した。（長浦でも「シネマトーク」を2回予定していたが、台風15号被害とコロナウイルス感染拡大防止対策のため中止した。）

外部評価（図書館協議会からの意見）

- ・中央図書館のヤングアダルトコーナーについて、設置場所が分かりにくいので、もっと高校生など若い人たちを惹きつけるような工夫を考えていただきたい。
- ・高齢者の集まりなどに公民館等と連携して図書館から出向くなど、図書館までの交通手段がない高齢者へのアプローチについて検討していただきたい。
- ・大活字本の貸出が減少している一方で、高齢者向けの文庫の貸出が増えているのであれば、その状況についても分析していただきたい。